

「自分が自分であるために」

高 二

数年前、スイスで安楽死をすることを選んだ日本人女性の最期に密着したテレビ番組を見た。彼女の強い意志とその決断に向き合い続けた家族の姿は今でも鮮明に覚えている。

私の母は後天性難治性の病気をもっている。血管が破裂する度に入退院や処置を繰り返す母を幼い頃から見てきた。母は母自身に何かあったときのために私たち家族に「最期は安楽死させてほしい」と自分の意志を伝えてくれたことがある。

そもそも、安楽死には二つの種類がある。一つ目は、延命治療を中止して命が尽きるのを待つ「消極的安楽死」と呼ばれている方法だ。二つ目は、医師などの助けを得ながら、薬の投与によって自ら死に至らせる「積極的安楽死」という方法だ。現在、日本では「消極的安楽死」は認められているが、「積極的安楽死」は認められていない。母は「積極的安楽死」を望んでいるが、現在の日本で行うことは不可能だ。そこで、母が考えて

いるのはスイスに行つて「積極的安楽死」を行うという方法だ。既にスイスでは複数の日本人を受け入れたそうだった。

私が母の考えを知ったのは、数年前のスイスで安楽死した日本人女性の密着番組を見た直後のことだった。このことを言われたとき、私はわけも分からずただ戸惑っていたが、安楽死について自分なりに調べてみて、今は母の意思を尊重したいと思つている。ただ、母を止めたい気持ちがないわけではない。

初め、私は「積極的安楽死」に対して否定的な意見をもっていた。何故なら、まだ生きることができるかもしれないのに、その可能性を捨てていくように思ったからだ。しかし、番組で女性が出た。「天井をただ見つめるだけの人生で、私が苦しい思いをしていても生きていてほしいと思えますか」という言葉を聞いて、考えが変わってきた。母が病気で苦しんでいるのを見ていただけでも、胸が締め付けられるほど苦しく感じる。自分も同じ病気になり、その苦しみを味わったとき、それでも自分が生きていたいと思える自信はなかった。

また、女性の「私が私である内に安楽死をした
い」という言葉も私の心に重く響いた。母も話し
てくれたことがあるが、「積極的安楽死」を望む
一番の理由は「自分が最期まで自分のままである
ため」らしい。いつかは病気に体を蝕まれ、自ら
の意思がなくなり「自分」がなくなってしまうか
もしれない。「自分」がなくなってしまうなんて
想像することもできないし、正直考えたくもない
くらいに恐ろしいことだ。

現在の日本では、「積極的安楽死」について深
く踏み込んだ議論は行われていない。しかし、こ
の問題は今、日本が向き合うべきことの一つでは
ないだろうか。もちろん、人の「死」が関わるこ
の問題に正解を出すことはとても難しいことだ。
全員が納得できる答えは見つからないかもしれな
い。だが、「自分が自分であるため」に「積極的
安楽死」を望むこと。この「自分が自分のままで
ありたい」という思いは、全ての人に認められる
べき権利なのではないだろうか。今すぐに結論が
出せるわけではない。しかし、少しずつでも「積
極的安楽死」と向き合い、今まで以上に議論して
いくべきだと私は思う。